

島根県立中央病院で診察を受けられる患者さんへ

当院では、以下の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、ご自身の試料・情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

ただし、すでに解析を終了している場合には研究データからあなたの情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

研究題目	脳卒中データバンクを用いたくも膜下出血の研究：破裂脳動脈瘤の大きさ・部位・年齢・性差・治療法・脳血管攣縮・水頭症・転帰の長期変化と関連因子の研究
研究期間	2019年4月4日～2026年12月31日
対象患者	脳卒中データバンクに登録された症例のうち、くも膜下出血の原因として破裂脳動脈瘤が認められた患者さん
対象期間	2000年1月1日～2025年12月31日
研究機関の名称	島根県立中央病院、東京天使病院 ※解析、論文作成には広島大学脳神経外科・島根大学脳神経外科・東京大学大学院 医学系研究科も参加します。
研究責任者	脳神経外科 井川 房夫
意義・目的	我が国では、脳ドック検診やMRIの普及で、くも膜下出血（SAH）の原因となる未破裂脳動脈瘤の発見される割合が高く、欧米に比べ約3倍破裂しやすいとされています。 くも膜下出血の治療法には開頭クリッピング術と、コイル塞栓術があり、従来多かった開頭クリッピング術は体への負担が大きく、日本は世界一高齢化しているため、体への負担の少ないコイル塞栓術も増えています。 先行研究で、脳卒中データバンクのくも膜下出血のデータを用いて開頭クリッピング術とコイル塞栓術の差がないことを報告し、年齢による治療法の検討も行いました。 今回は、脳卒中データバンクにおける破裂脳動脈瘤の各項目について長期変化と関連因子を検討し、人口の高齢化や生活習慣病の改善に伴い、破裂脳動脈瘤の大きさに変化があるか、治療方法の変化と転帰にどのような影響があったかを調査します。
研究の方法 (試料・情報の利用 方法・他施設への提供 方法を含む)	脳卒中データバンクを利用して、「利用する試料・情報の項目」に示す項目を抽出し、破裂脳動脈瘤の大きさ、部位、性状、年齢、性、治療法・脳血管攣縮・水頭症・転帰を年代別に比較し、変化を解析してその原因を検討します。また、65歳未満、65-74歳、75歳以上の3群に分類し、年齢による治療法の影響を統計学的に検討します。
利用する試料・情報の項目	入院時年齢、性別、SAH発症日、入院日、破裂部位、動脈瘤性状、動脈瘤サイズ分類、治療内容、脳血管攣縮、水頭症、入院時CT、Fisher分類（CT所見による分類）、Hunt & Kosnic ^{※1} 入院時グレード、WFNS ^{※1} 入院グレード、退院時mRS（脳卒中患者さんに対して主に機能自立度を評価する指標）、既往症 等 ※1：くも膜下出血の重症度分類
試料・情報の提供の有無	試料・情報の他施設への提供 あり・ <input type="checkbox"/> なし (ありの場合、海外の施設への提供 あり・なし)
個人情報の保護	当院における個人情報保護の基本方針に準じて行います。
結果の公表	投稿論文として公表予定です。
備考	

***** お問い合わせ先 *****

島根県立中央病院
脳神経外科 井川 房夫
電話：0853 - 22 - 5111
